

竹林の風

教育事務所だより第62号 -前進・信頼・誠実-

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和4年7月15日
発行責任者 西村和孝
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/
kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp



栃木県教育振興基本計画 2025 2年目です!

県教委では、生涯にわたって学び続け、主体的に社会に参画し、広い視野を持って未来をつくっていきける人間の育成を目指して、教育を推進しています。

そのような中、そのマスタープランであります「栃木県教育振興基本計画 2025—とちぎ教育ビジョン—」を昨年策定し、様々な施策を実施しています。

次代を担う子どもたちが予測困難な時代をたくましく生き抜く力を育むことを目指し、学校・家庭・地域の連携・協働を一層推進しながら、6つの基本目標を設定しています。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| I 学びの場における安全を確保する | II 一人一人を大切にし、可能性を伸ばす |
| III 未来を切り拓く力の基盤を育む | IV 自分の未来を創る力を育む |
| V 豊かな学びを通して夢や志を育む | VI 教育の基盤を整える |

この目標を受け、20の施策や取組があります。主なもののみ確認したいと思います。

基本施策 1 学校安全の徹底・充実



学校教育の基盤として、最も大切なのが「学校安全の徹底・充実」です。教員が安全に関する知識を有し、状況に応じた適切な判断ができるようにすることはもとより、児童生徒が自ら身を守るために、主体的に行動する態度を身につけられる資質や能力を育成することを重視していきます。

基本施策 2 人権尊重の精神を育む教育の充実



全ての人々が幸福な生活を営むために欠かすことのできない大切な権利ですが、新たな課題も生じています。人権や人権問題について理解を深め、人権感覚を磨くとともに、子どもたちの自尊感情を高めることで自他を大切にす気持ちを育てていきたいと考えています。



先日、河内地区人権教育指導者一般研修「ふれあい人権フォーラム」において、日光さる軍団の村崎太郎氏の講演『『猿まわし』伝承者が本当に伝えたいこと～同和問題の解決に向けて～』をお聞きしました。

村崎氏は、講演の中で「知らないことが差別を生む。差別をなくそうと簡単に言うのではなく、まずは差別と向き合い、差別について知ろうとしなければ、差別はなくなる」ということをおっしゃっていました。

差別を知り、差別を理解することは、心の苦痛を伴うことかもしれません。ただ、差別はいけないことと自分から遠ざけるのではなく、しっかりと差別と向き合うことが、本当の意味での解決につながるのだと思いました。

河内地区地域連携教員研修兼地域コーディネーター研修

令和4年6月9日（木）に栃木県総合教育センター大講義室において表記研修を開催しました。

講師にCS（コミュニティ・スクール）マイスターである鈴木廣志氏を招き、「みんなが笑顔になる学校と地域の連携・協働の秘訣」～With コロナ・After コロナの学校と地域の関係を考える～という演題のもと、御講話いただきました。

学校と地域それぞれの思いを共有し、学校と地域をつなぎ直すポイントである「みんなが笑顔になる7ヶ条」を示していただいた後、意見交換をしました。つながることの大切さに改めて気づき、参加者にとって今後の活動の充実に向けて意欲が高まる研修となりました。



みんなが笑顔になる7ヶ条

- 1 コミュニケーションは双方向のキャッチボール（一方通行やドッジボールにならないように）
- 2 その先の想像力をもつこと（それぞれの立場から想像力を働かせる）
- 3 自分事として考えること（関心を持ち続けること、気にかけること）
- 4 誰かが声をかけるのではなく、あなたが声をかけること
- 5 「困っています」と言えること・「SOSを出す」こと
- 6 問題解決を学校・家庭・地域・行政の4者で考えること（どこか1者だけでなく、協力すること）
- 7 余計なお世話でなく、大きなお世話（思いやり算）をすること
 - ・たす（+）…“たすけあう”こと ・ひく（-）…“ひきうける”こと
 - ・かける（×）…“声をかける”こと ・わる（÷）…“いたわる”こと“わけあう”こと

今後は、これまでの地域連携から更に一步踏み出し、学校と地域の人々が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指すことの大切さをお話しいただきました。また、栃木市の「律之助ビール」や上三川町の「梅シロップ」などの地域資源を生かした協働活動の事例を示していただいたことで、参加者は、「学校を核とした地域づくり」の必要性も実感していました。



参加者アンケートより

- ・学校と地域が心を通わせ、手を取り合って子どもたちのために頑張っていきたい。
- ・みんなが笑顔になる7ヶ条とおもいやり算を生かしてコミュニケーションを図っていきたい。
- ・学校、子ども、地域をつなぐ協働のまちづくりを目指しながら地域と学校をつなげられるようにしていきたい。

教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする